



始めましょう

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere

NetApp
December 09, 2025

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/sc-plugin-vmware-vsphere-61/scpivs44_get_started_overview.html on December 09, 2025. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

始めましょう	1
導入プロセスの概要	1
既存ユーザ向けの導入ワークフロー	1
SCVを導入するための要件	2
導入の計画と要件	2
必要なONTAP権限	7
必要な最小vCenter権限	9
オープン仮想アプライアンス（OVA）のダウンロード	10
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入	10
導入後の必要な処理と問題	14
導入後に必要な処理	14
導入で発生する可能性がある問題	14
認証エラーの管理	15
SnapCenter ServerへのSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの登録	15
SnapCenter VMware vSphere Clientへのログイン	16

始めましょう

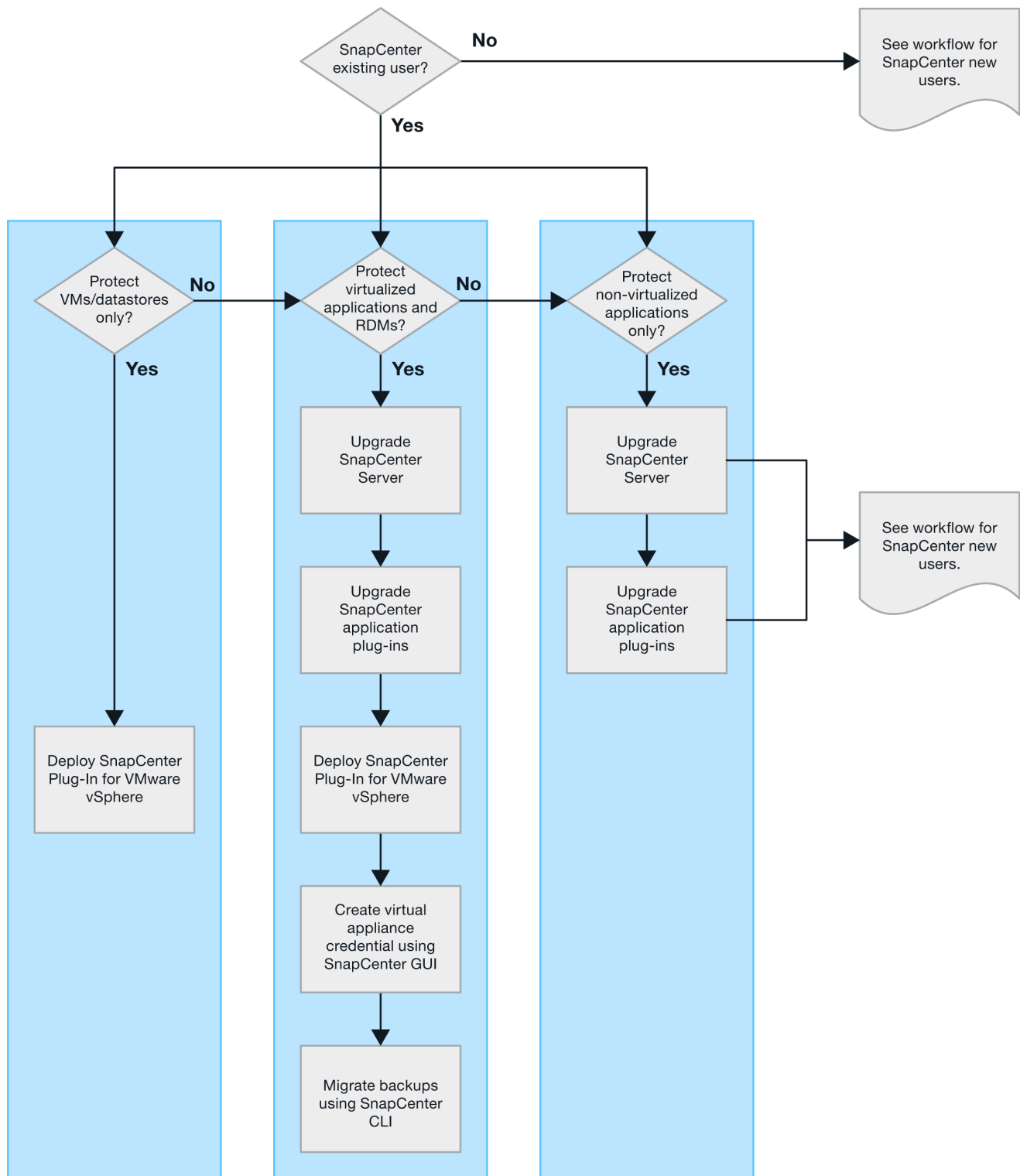
導入プロセスの概要

SnapCenterの機能を使用して、仮想マシン上のVM、データストア、アプリケーションと整合性のあるデータベースを保護するには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入する必要があります。

既存のSnapCenterユーザは、新規のSnapCenterユーザとは別の導入ワークフローを使用する必要があります。

既存ユーザ向けの導入ワークフロー

SnapCenterバックアップをすでに所有しているSnapCenterユーザの場合は、次のワークフローを使用して作業を開始してください。



SCVを導入するための要件

導入の計画と要件

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere (SCV) の導入を開始する前に、次の要件を理解

しておく必要があります。

ホストの要件

SnapCenter Plug-in for VMware vSphere (SCV) の導入を開始する前に、ホストの要件を確認しておく必要があります。

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphere は、Windows システム上のデータを保護するために使用されるか、Linux システム上のデータを保護するために使用されるかに関係なく、Linux VM として展開されます。
- vCenter ServerにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入する必要があります。

バックアップ スケジュールは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが展開されているタイム ゾーンで実行され、vCenter は、それが配置されているタイム ゾーンでデータを報告します。そのため、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereとvCenterが異なるタイムゾーンにある場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのダッシュボードのデータがレポートのデータと異なることがあります。

- 名前に特殊文字が含まれるフォルダにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを展開しないでください。

フォルダー名には、次の特殊文字を含めることはできません: \$!@#%^&()_+{}';,.*?"<>|

- vCenter Serverごとに、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの固有のインスタンスを個別に導入して登録する必要があります。
 - 各 vCenter Server は、リンク モードかどうかに関係なく、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの個別のインスタンスとペアリングする必要があります。
 - SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの各インスタンスは、個別のLinux VMとして導入する必要があります。

たとえば、vCenter Server の 6 つの異なるインスタンスからバックアップを実行するとします。その場合、6 台のホストにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを展開し、各 vCenter Server をSnapCenter Plug-in for VMware vSphere の一意のインスタンスとペアリングする必要があります。

- vVol VM (VMware vVolデータストア上のVM) を保護するには、まずONTAP tools for VMware vSphereを導入する必要があります。ONTAP toolsは、ONTAPおよびVMware WebクライアントでvVol用のストレージをプロビジョニングおよび設定するために使用します。

詳細については、ONTAP tools for VMware vSphereのドキュメントを参照してください。さらに、以下を参照してください "[NetApp Interoperability Matrix Tool](#)"ONTAPツールでサポートされているバージョンに関する最新情報。

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereでは、Storage vMotionをサポートする際の仮想マシンの制限により、共有のPCIデバイスまたはPCIeデバイス (NVIDIA Grid GPUなど) のサポートは限定的です。詳細については、ベンダーが提供するVMwareの導入ガイドを参照してください。
 - サポートされる処理：

リソース グループの作成

VMの整合性を伴わないバックアップの作成

すべてのVMDKがNFSデータストア上にあり、プラグインでStorage vMotionを使用する必要がない場合の、VM全体のリストア

VMDKの接続および接続解除

データストアのマウントとアンマウント

ゲスト ファイルのリストア

- サポートされない処理：

VM整合性を伴うバックアップの作成

1つ以上のVMDKがVMFSデータストア上にある場合の、VM全体のリストア

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの制限事項の詳細については、以下を参照してください。"[SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのリリース ノート](#)"。

ライセンス要件

次のライセンスを提供する必要があります...	ライセンス要件
ONTAP	SnapMirrorまたはSnapVault（関係のタイプを問わず、セカンダリのデータ保護用）
その他の製品	vSphere Standard、Enterprise、または Enterprise Plus Storage vMotion を使用してリストア操作を実行するには、vSphere ライセンスが必要です。vSphere Essentials または Essentials Plus ライセンスには、Storage vMotion は含まれません。
プライマリ デスティネーション	SnapCenter Standard: VMware 上でアプリケーションベースの保護を実行するために必要SnapRestore: VMware VM およびデータストアのリストア操作のみを実行するために必要FlexClone: VMware VM およびデータストアのマウントおよび接続操作のみに使用
セカンダリ デスティネーション	SnapCenter Standard: VMware FlexClone上のアプリケーションベースの保護のフェイルオーバー操作に使用: VMware VM およびデータストアのマウントおよび接続操作にのみ使用

ソフトウェア サポート

項目	サポート対象のバージョン
vCenter vSphere	7.0U1以上
ESXiサーバ	7.0U1以上
IPアドレス	IPv4、IPv6
VMware TLS	1.2、1.3
SnapCenter ServerでのTLS	1.2、1.3 SnapCenterサーバは、これを使用して、VMDK データ保護操作を介したアプリケーションのためにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereと通信します。

項目	サポート対象のバージョン
VMwareアプリケーションvStorage API for Array Integration (VAAI)	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、これを使用してリストア処理のパフォーマンスを向上させます。また、NFS環境でのパフォーマンスも向上させます。
ONTAP tools for VMware	SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、これを使用してvVolデータストア（VMwareの仮想ボリューム）を管理します。サポートされているバージョンについては、" NetApp Interoperability Matrix Tool "。

サポートされているバージョンに関する最新情報については、"[NetApp Interoperability Matrix Tool](#)"。

NVMe over TCPおよびNVMe over FCプロトコルの要件

NVMe over TCP および NVMe over FC プロトコル サポートの最小ソフトウェア要件は次のとおりです。

- vCenter vSphere 7.0U3
- ESXi 7.0U3
- ONTAP 9.10.1

スペース、サイズ、スケーリングの要件

項目	要件
推奨CPU数	8
推奨RAM	24 GB
SnapCenter Plug-in for VMware vSphere、ログ、MySQLデータベース用の最小ハード ドライブ スペース	100 GB

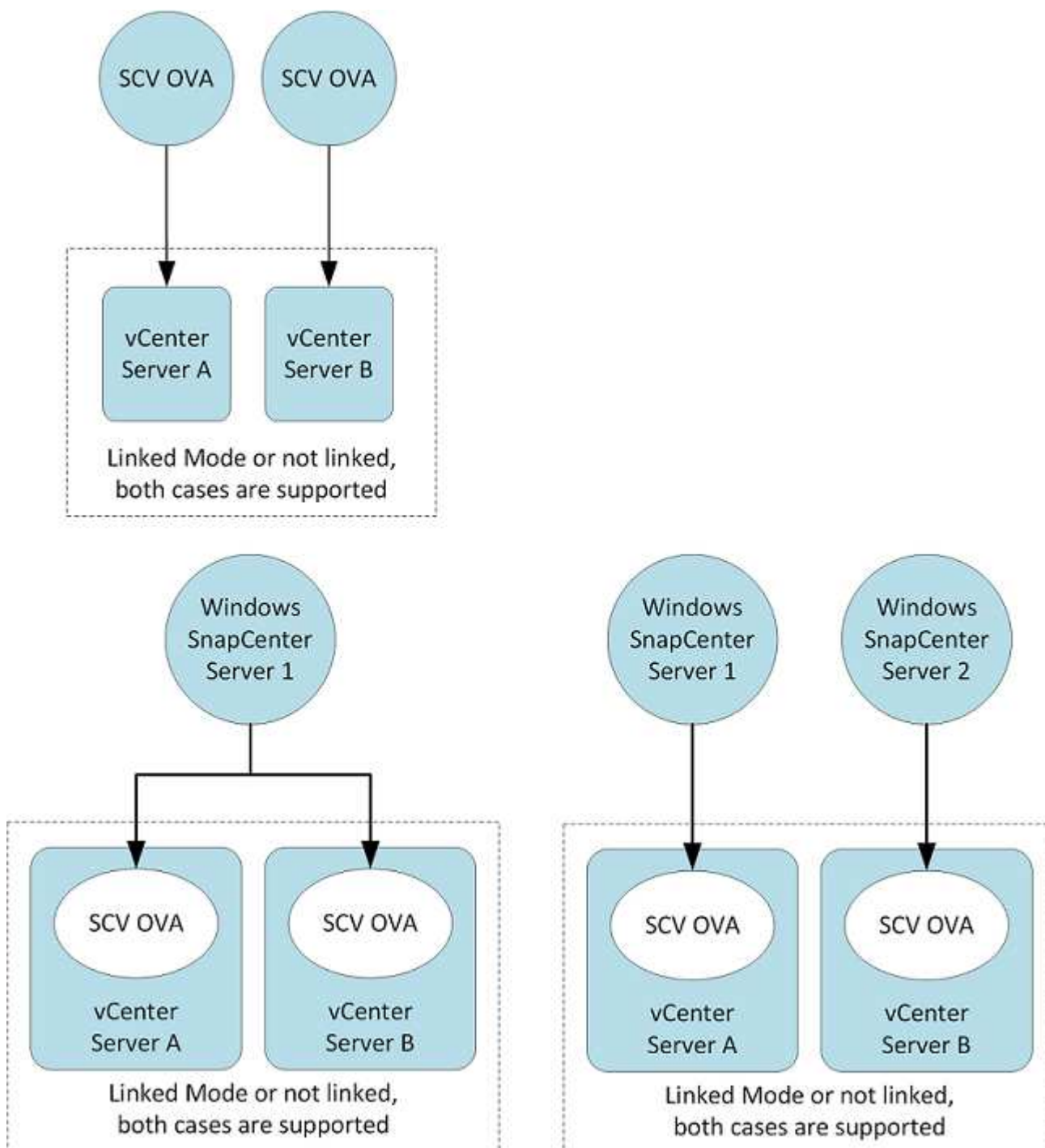
接続とポートの要件

ポートのタイプ	事前設定されたポート
VMware ESXi Serverのポート	443 (HTTPS)、双方向 ゲスト ファイル復元機能はこのポートを使用します。
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのポート	8144 (HTTPS)、双方向 このポートは、VMware vSphere クライアントとSnapCenterサーバーからの通信に使用されます。 8080 双方向 このポートは仮想アプライアンスの管理に使用されます。 注: SnapCenterに SCV ホストを追加するためのカスタム ポートがサポートされています。
VMware vSphere vCenter Serverのポート	vVol VMを保護する場合は、ポート443を使用する必要があります。

ポートのタイプ	事前設定されたポート
ストレージ クラスタまたはStorage VMのポート	443 (HTTPS)、双方向 80 (HTTP)、双方向 このポートは、仮想アプライアンスとストレージ VM またはストレージ VM を含むクラスター間の通信に使用されます。

サポートされる構成

各プラグイン インスタンスは、リンク モードの 1 つの vCenter Server のみをサポートします。ただし、次の図に示すように、複数のプラグイン インスタンスが同じ SnapCenter Server をサポートできます。



必要なRBAC権限

vCenter 管理者アカウントには、次の表に記載されている必要な vCenter 権限が必要です。

この操作を実行するには...	次の vCenter 権限が必要です...
vCenterでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入および登録する	拡張機能: 拡張機能を登録する
SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをアップグレードまたは削除する	エクステンション <ul style="list-style-type: none">• 拡張機能の更新• 拡張機能の登録解除
SnapCenterに登録されているvCenterのクレデンシャル ユーザ アカウントが、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereへのユーザ アクセスを検証できるようにする	sessions.validate.session
ユーザにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereへのアクセスを許可する	SCV 管理者、SCV バックアップ、SCV ゲスト、ファイル復元、SCV 復元、SCV ビューの権限は、vCenter ルートに割り当てする必要があります。

AutoSupport

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、プラグインのURLなど、使用状況を追跡するための最小限の情報を提供します。AutoSupportには、インストール済みプラグインの表が含まれています。この表はAutoSupport Viewerに表示されます。

必要なONTAP権限

必要な最小ONTAP権限は、データ保護に使用するSnapCenterプラグインによって異なります。



SnapCenter Plug-in for VMware (SCV) 5.0以降では、SCVへのカスタマイズされたロールベースアクセスを持つすべてのONTAPユーザに対して、HTTPおよびONTAPIタイプアプリケーションをユーザのログイン方法として追加する必要があります。これらのアプリケーションにアクセスできないと、バックアップは失敗します。ONTAPユーザのログイン方法の変更を認識させるには、SCVサービスを再起動する必要があります。

必要な最小ONTAP権限

すべてのSnapCenterプラグインには、次の最小権限が必要です。

全アクセス コマンド: 最小限のONTAP権限。
event generate-autosupport-log
ジョブ履歴 ジョブを表示 ジョブを表示 ジョブを停止

lun lun 作成 lun 削除 lun igroup 追加 lun igroup 作成 lun igroup 削除 lun igroup 名前変更 lun igroup 表示 lun マッピング レポート ノード追加 lun マッピング lun マッピング作成 lun マッピング削除 lun マッピング レポート ノード削除 lun マッピング表示 lun 修正 lun ボリューム移動 lun オフライン lun オンライン lun 永続予約 クリア lun サイズ変更 lun シリアル lun 表示

snapmirror list-destinations snapmirror policy add-rule snapmirror policy modify-rule snapmirror policy remove-rule snapmirror policy show snapmirror restore snapmirror show snapmirror show-history snapmirror update snapmirror update-ls-set

version

ボリューム クローン、ボリュームの作成、クローンの表示、ボリュームの分割、開始、ボリューム クローンの分割の状態、ボリュームのクローンの分割の停止、ボリュームの作成、ボリュームの削除、ボリュームの破棄、ファイル クローン、ボリュームの作成、ファイル、ディスク使用量の表示、ボリュームのオフライン、ボリュームのオンライン、ボリュームの管理機能、ボリュームの変更、ボリュームの qtree の作成、ボリュームの qtree の削除、ボリュームの qtree の変更、ボリュームの表示、ボリュームの制限、ボリュームの表示、スナップショットの作成、ボリュームのスナップショットの削除、ボリュームのスナップショットの変更、ボリュームのスナップショットのスナップロックの有効期限の変更、ボリュームのスナップショットの名前の変更、ボリュームのスナップショットの復元、ファイルの復元、ボリュームのスナップショットの表示、ボリュームのスナップショットの表示、デルタの表示、ボリュームのマウント解除

vserver cifs vserver cifs share create vserver cifs share delete vserver cifs shadowcopy show vserver cifs share show vserver cifs show vserver export-policy vserver export-policy create vserver export-policy delete vserver export-policy rule create vserver export-policy rule show vserver export-policy show vserver iscsi vserver iscsi connection show vserver nvme subsystem controller vserver nvme subsystem controller show vserver nvme subsystem create vserver nvme subsystem delete vserver nvme subsystem host vserver nvme subsystem host show vserver nvme subsystem host add vserver nvme subsystem host remove vserver nvme subsystem map vserver nvme subsystem map show vserver nvme subsystem map add vserver nvme subsystem map remove vserver nvme subsystem modify vserver nvme subsystem show vserver nvme namespace create vserver nvme namespace delete vserver nvme namespace modify vserver nvme namespace show network interface network interface failover-groups

読み取り専用コマンド: 最小限のONTAPPrivileges

クラスタIDの表示、ネットワークインターフェースの表示、vserver、vserver peer、vserverの表示

全アクセスコマンド: 最小限のONTAP権限

一貫性グループストレージユニット表示

データ vServer に関連付けるロールを作成するときは、*cluster identity show* クラスター レベル コマンドを無視できます。



サポートされていないvServerコマンドに関する警告メッセージは無視してもかまいません。

ONTAPに関するその他の情報

- SnapMirrorアクティブ同期機能を使用するには、ONTAP 9.12.1以降のバージョンが必要です。
- 改ざん不能のSnapshot (TPS) 機能を使用するには、次の手順を実行します。
 - SANにはONTAP 9.13.1以降のバージョンが必要です。
 - NFSにはONTAP 9.12.1以降のバージョンが必要です。
- NVMe over TCP および NVMe over FC プロトコルの場合は、ONTAP 9.10.1 以降が必要です。



ONTAPバージョン9.11.1以降の場合、ONTAPクラスタとの通信にはREST APIを使用します。ONTAPユーザは、httpアプリケーションを有効にしておく必要があります。ただし、ONTAP REST APIで問題が見つかった場合は、設定キー「FORCE_ZAPI」を使用して従来のZAPIワークフローに切り替えることができます。場合によっては、設定APIを使用してこのキーを追加または更新し、trueに設定する必要があります。KB記事を参照してください。["RestAPI を使用して SCV の設定パラメータを編集する方法"](#)詳細についてはこちらをご覧ください。

必要な最小vCenter権限

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入を開始する前に、最小限必要なvCenter権限があることを確認してください。

vCenter管理者ロールに必要な権限

Datastore.AllocateSpace、Datastore.Browse、Datastore.Delete、Datastore.FileManagement、Datastore.Move、Datastore.Rename、Extension.Register、Extension.Unregister、Extension.Update、Host.Config.AdvancedConfig、Host.Config.Resources、Host.Config.Settings、Host.Config.Storage、Host.Local.CreateVM、Host.Local.DeleteVM、Host.Local.ReconfigVM、Network.Assign、Resource.ApplyRecommendation、Resource.AssignVMToPool、Resource.ColdMigrate、Resource.HotMigrate、Resource.QueryVMotion、System.Anonymous、System.Read、System.View、Task.Create、Task.Update、VirtualMachine.Config.AddExistingDisk、VirtualMachine.Config.AddNewDisk、VirtualMachine.Config.AdvancedConfig、VirtualMachine.Config.ReloadFromPath、VirtualMachine.Config.RemoveDisk、VirtualMachine.Config.Resource、VirtualMachine.GuestOperations.Execute、VirtualMachine.GuestOperations.Modify、VirtualMachine.GuestOperations.Query、VirtualMachine.Interact.PowerOff、VirtualMachine.Interact.PowerOn、VirtualMachine.Inventory.Create、VirtualMachine.Inventory.CreateFromExisting、VirtualMachine.Inventory.Delete、VirtualMachine.Inventory.Move、VirtualMachine.Inventory.Register、VirtualMachine.Inventory.Unregister、VirtualMachine.State.CreateSnapshot、VirtualMachine.State.RemoveSnapshot、VirtualMachine.State.RevertToSnapshot

SnapCenter Plug-in for VMware vCenterに固有の必要な権限

Privileges	ラベル
netappSCV.Guest.RestoreFile	ゲスト ファイルのリストア
netappSCV.Recovery.MountUnMount	マウント / アンマウント
netappSCV.Backup.DeleteBackupJob	リソース グループ / バックアップの削除
netappSCV.Configure.ConfigureStorageSystems.Delete	ストレージ システムの削除
netappSCV.View	View
netappSCV.Recovery.RecoverVM	VMの回復
netappSCV.Configure.ConfigureStorageSystems.Add Update	ストレージ システムの追加 / 変更
netappSCV.Backup.BackupNow	今すぐバックアップ
netappSCV.Guest.Configure	ゲストの設定
netappSCV.Configure.ConfigureSnapCenterServer	SnapCenterサーバーを構成する
netappSCV.Backup.BackupScheduled	リソース グループを作成

オープン仮想アプライアンス（OVA）のダウンロード

オープン仮想アプライアンス（OVA）をインストールする前に、vCenterに証明書を追加します。.tarファイルには、OVA証明書、Entrustルート証明書、中間証明書が含まれていて、証明書は証明書フォルダで参照できます。OVA環境は、VMware vCenter 7u1以降でサポートされます。

VMware vCenter 7.0.3以降のバージョンでは、Entrust証明書によって署名されたOVAは信頼されなくなりました。この問題を解決するには、次の手順を実行する必要があります。

手順

1. SnapCenter Plug-in for VMwareをダウンロードするには、次の手順を実行します。
 - NetAppサポートサイトにログインします（["https://mysupport.netapp.com/products/index.html"](https://mysupport.netapp.com/products/index.html)）。
 - 製品リストから * SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* を選択し、最新リリースのダウンロードボタンを選択します。
 - SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをダウンロードする`.tar`ファイルを任意の場所に転送します。
2. tarファイルの内容を展開します。tarファイルには、OVAとcertsフォルダが含まれています。certsフォルダには、Entrustルート証明書および中間証明書が含まれています。
3. vSphere Clientで、vCenter Serverにログインします。
4. 管理 > 証明書 > 証明書管理 に移動します。
5. *信頼されたルート証明書*の横にある*追加*を選択します
 - certs フォルダに移動します。
 - Entrustルート証明書および中間証明書を選択します。
 - 各証明書を一度に1つずつインストールします。
6. 証明書は、「信頼されたルート証明書」の下のパネルに追加されます。証明書をインストールしたら、OVAを検証して導入できるようになります。



ダウンロードした OVA が改ざんされていない場合は、[発行者] 列に [信頼できる証明書] が表示されます。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入

SnapCenterの機能を使用して、仮想マシン上のVM、データストア、アプリケーションと整合性のあるデータベースを保護するには、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入する必要があります。

開始する前に

このセクションでは、導入を開始する前に実行しておく必要があるすべての操作を示します。



OVA環境は、VMware vCenter 7u1以降でサポートされます。

- 導入要件を確認しておく必要があります。
- サポートされているバージョンのvCenter Serverが実行されている必要があります。
- vCenter Server環境の構成とセットアップが完了している必要があります。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphere VM用のESXiホストのセットアップが完了している必要があります。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの.tarファイルをダウンロードしておく必要があります。
- vCenter Serverインスタンスのログイン認証の詳細を確認しておく必要があります。
- 有効な公開鍵ファイルと秘密鍵ファイルが含まれた証明書が必要です。詳細については、以下の記事を参照してください。 ["ストレージ証明書管理"](#) セクション。
- vSphere Clientのすべてのブラウザ セッションからログアウトして、ブラウザを閉じておく必要があります。また、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時にブラウザ キャッシュの問題が発生するのを回避するために、キャッシュを削除しておく必要があります。
- vCenterでTransport Layer Security (TLS) を有効にしておく必要があります。VMwareのドキュメントを参照してください。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているvCenter以外のvCenterでバックアップを実行する場合は、ESXiサーバ、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere、および各vCenterを同じ時刻に同期する必要があります。
- vVolデータストアのVMを保護するには、まずONTAP tools for VMware vSphereを導入する必要があります。ONTAPツールのサポートされているバージョンに関する最新情報については、 ["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#) 。ONTAP toolsを使用して、ONTAPおよびVMware Web Clientでストレージをプロビジョニングおよび設定します。

vCenterと同じタイムゾーンでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入します。バックアップ スケジュールは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているタイムゾーンで実行されます。vCenterは、vCenterが配置されているタイムゾーンでデータをレポートします。そのため、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereとvCenterが異なるタイムゾーンにある場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのダッシュボードのデータがレポートのデータと異なることがあります。

手順

1. VMware vCenter 7.0.3以降のバージョンの場合は、 ["オープン仮想アプライアンス \(OVA\) のダウンロード"](#) 証明書を vCenter にインポートします。
2. ブラウザからVMware vSphere vCenterにアクセスします。



IPv6 アドレスの HTML Web クライアントの場合は、Chrome または Firefox のいずれかを使用する必要があります。

3. **VMware vCenter Single Sign-On** ページにログインします。
4. ナビゲータ ペインで、データセンター、クラスター、ホストなど、仮想マシンの有効な親オブジェクトである任意のインベントリ オブジェクトを右クリックし、[OVF テンプレートのデプロイ] を選択して VMware デプロイ ウィザードを起動します。
5. .ovaファイルを含む.tarファイルをローカル システムに展開します。*OVFテンプレートの選択*ページで、.ova .tar で抽出されたフォルダー内のファイル。
6. *次へ*を選択します。
7. *名前とフォルダーの選択*ページで、VM または vApp の一意の名前を入力し、展開場所を選択して、*次

へ*を選択します。

このステップでは、`.tar`ファイルを vCenter にアップロードします。VMのデフォルト名は選択したVMの名前と同じです。`.ova`ファイル。デフォルト名を変更する場合は、各vCenter Server VMフォルダ内で一意の名前を選択します。

VMのデフォルトの導入場所は、ウィザードを開始したインベントリ オブジェクトとなります。

8. ***リソースの選択***ページで、デプロイされた VM テンプレートを実行するリソースを選択し、***次へ***を選択します。
9. ***レビューの詳細***ページで、`.tar`テンプレートの詳細を選択し、[次へ] を選択します。
10. ***ライセンス契約***ページで、***すべてのライセンス契約に同意します***のチェックボックスをオンにします。
11. ***ストレージの選択***ページで、デプロイされた OVF テンプレートのファイルを保存する場所と方法を定義します。
 - a. VMDKのディスク フォーマットを選択します。
 - b. VMストレージ ポリシーを選択します。

このオプションは、デスティネーション リソースでストレージ ポリシーが有効になっている場合にのみ使用できます。

- c. 導入したOVAテンプレートを格納するデータストアを選択します。

構成ファイルと仮想ディスク ファイルはこのデータストアに格納されます。

仮想マシンまたはvApp、および関連するすべての仮想ディスク ファイルを格納できるサイズのデータストアを選択します。

12. ***ネットワークの選択***ページで、次の操作を行います。
 - a. ソース ネットワークを選択し、デスティネーション ネットワークにマップします。

[Source Network]列には、OVAテンプレートで定義されているすべてのネットワークが表示されます。
 - b. **IP 割り当て設定** セクションで、必要な IP アドレス プロトコルを選択し、次へ を選択します。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereは、1つのネットワーク インターフェイスをサポートします。複数のネットワーク アダプタが必要な場合は、手動で設定する必要があります。参照 ["KB記事: 追加のネットワークアダプタを作成する方法"](#)。

13. ***テンプレートのカスタマイズ***ページで、次の操作を行います。
 - a. 既存の **vCenter** に登録 セクションで、仮想アプライアンスの vCenter 名と vCenter 資格情報を入力します。

vCenterユーザー名フィールドに、次の形式でユーザー名を入力します。 domain\username 。
 - b. **SCV 資格情報の作成** セクションで、ローカル資格情報を入力します。

ユーザー名 フィールドにローカル ユーザー名を入力します。ドメインの詳細は含めないでください。



指定したユーザ名とパスワードをメモしておいてください。あとでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの設定を変更する場合、これらのクレデンシャルが必要になります。

c. maintユーザのクレデンシャルを入力します。

d. *ネットワークプロパティのセットアップ*セクションで、ホスト名を入力します。

- i. **IPv4** ネットワーク プロパティの設定 セクションで、IPv4 アドレス、IPv4 ネットマスク、IPv4 ゲートウェイ、IPv4 プライマリ DNS、IPv4 セカンダリ DNS、IPv4 検索ドメインなどのネットワーク情報を入力します。
- ii. **IPv6** ネットワーク プロパティの設定 セクションで、IPv6 アドレス、IPv6 ネットマスク、IPv6 ゲートウェイ、IPv6 プライマリ DNS、IPv6 セカンダリ DNS、IPv6 検索ドメインなどのネットワーク情報を入力します。

必要に応じて、IPv4 または IPv6 アドレス フィールド、あるいはその両方を選択します。IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を使用している場合は、そのうちの 1 つに対してのみプライマリ DNS を指定する必要があります。



ネットワーク構成として DHCP を使用して続行する場合は、これらの手順をスキップして、[ネットワーク プロパティのセットアップ] セクションのエントリを空白のままにすることができます。

a. *セットアップ日時*で、vCenter が配置されているタイムゾーンを選択します。

14. *完了準備完了*ページでページを確認し、*完了*を選択します。

すべてのホストをIPアドレスで設定する必要があります（FQDNホスト名はサポートされません）。導入前に入力内容は検証されません。

OVFのインポート タスクと導入タスクが完了するのを待つ間、[Recent Tasks]ウィンドウで導入の進捗状況を確認できます。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入が正常に完了した場合、プラグインはLinux VMとして導入され、vCenterに登録されます。また、VMware vSphere Clientもインストールされます。

15. SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがデプロイされている VM に移動し、[概要] タブを選択して、[電源オン] ボックスを選択し、仮想アプライアンスを起動します。

16. SnapCenter Plug-in for VMware vSphere の電源がオンになっている間に、デプロイされたSnapCenter Plug-in for VMware vSphere を右クリックし、ゲスト **OS** を選択して、**VMware** ツールのインストール を選択します。

VMware toolsは、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが導入されているVMにインストールされます。VMware toolsのインストールの詳細については、VMwareのドキュメントを参照してください。

導入が完了するまでに数分かかることがあります。SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが起動すると導入が成功したことが画面上に通知され、VMware Toolsがインストールされ、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereへのログインを求められます。初回リブート時に、ネットワーク設定をDHCPから静的アドレスに切り替えることができます。ただし、静的アドレスからDHCPへの切り替えはサポートされていません。

画面にはSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入先のIPアドレスが表示されます。IPアドレスをメモしておきます。SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの設定を変更する場合、プラグインの管理GUI

にログインする必要があります。

17. 導入時の画面に表示されたIPアドレスと導入ウィザードで指定したクレデンシャルを使用してSnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理GUIにログインし、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがvCenterに接続され、有効になっていることをダッシュボードで確認します。

フォーマットを使用する `https://<appliance-IP-address>:8080` 管理 GUI にアクセスします。

導入時に設定した管理者ユーザ名とパスワード、およびメンテナンス コンソールを使用して生成されたMFAトークンを使用してログインします。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereが有効になっていない場合は、["VMware vSphere Clientサービスの再起動"](#)。

ホスト名が「UnifiedVSC/SCV」の場合は、アプライアンスを再起動します。アプライアンスを再起動してもホスト名が指定したホスト名に変更されない場合は、アプライアンスを再インストールする必要があります。

終了後の操作

必要な手続きを完了してください["展開後の運用"](#)。

導入後の必要な処理と問題

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入したら、インストールを完了する必要があります。

導入後に必要な処理

SnapCenterを初めて使用する場合は、データ保護処理を実行する前に、Storage VMをSnapCenterに追加する必要があります。Storage VMを追加する際は、管理LIFを指定してください。クラスタを追加し、クラスタ管理LIFを指定することもできます。ストレージの追加については、以下を参照してください。["ストレージの追加"](#)。

導入で発生する可能性がある問題

- 仮想アプライアンスを展開した後、次のシナリオではダッシュボードの バックアップ ジョブ タブが読み込まれない場合があります。
 - IPv4 アドレスを実行しており、SnapCenter VMware vSphere ホストに 2 つの IP アドレスがあります。その結果、ジョブ要求がSnapCenter Serverで認識されないIPアドレスに送信されることがあります。この問題を回避するには、使用するIPアドレスを次のように追加します。
 - i. SnapCenter Plug-in for VMware vSphereがデプロイされている場所に移動します。
/opt/netapp/scvservice/standalone_aegis/etc
 - ii. network- interface.propertiesファイルを開きます。
 - iii. の中で `network.interface=10.10.10.10` フィールドに、使用する IP アドレスを追加します。
 - NICが2つある場合。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入後も、vCenterでSnapCenter Plug-in for VMware vSphereのMOBエントリに古いバージョン番号が表示されることがあります。これは、vCenterで他のジョブが実

行されている場合に発生することがあります。時間の経過とともに、vCenterによってエントリが更新されます。

これらの問題を修正するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザ キャッシュをクリアし、GUIが正常に動作しているかどうかを確認します。

問題が解決しない場合は、VMware vSphere Client Serviceを再起動します

2. vCenter にログインし、ツールバーの メニュー を選択して、* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* を選択します。

認証エラーの管理

adminクレデンシャルを使用しないと、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入後または移行後に認証エラーが表示されることがあります。認証エラーが発生した場合は、サービスを再起動する必要があります。

手順

1. 次の形式を使用して、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere管理 GUI にログオンします。
`https://<appliance-IP-address>:8080`。管理者のユーザ名、パスワード、およびMFAトークンの情報を使用してログインします。MFAトークンはメンテナンス コンソールから生成できます。
2. サービスを再起動します。

SnapCenter ServerへのSnapCenter Plug-in for VMware vSphereの登録

SnapCenterでapplication-over-VMDKワークフロー（仮想化されたデータベースとファイルシステムのアプリケーションベースの保護ワークフロー）を実行する場合は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをSnapCenter Serverに登録する必要があります。

開始する前に

- SnapCenter Server 4.2以降が実行されている必要があります。
- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入して有効にしておく必要があります。

タスク概要

- SnapCenter Plug-in for VMware vSphereをSnapCenter Serverに登録するには、SnapCenter GUIを使用して「vsphere」タイプのホストを追加します。

ポート8144は、SnapCenter Plug-in for VMware vSphere内の通信用に事前に定義されています。

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの複数のインスタンスを同じSnapCenter Serverに登録することで、VMでのアプリケーションベースのデータ保護処理をサポートできます。同じSnapCenter Plug-in for VMware vSphereを複数のSnapCenter Serverに登録することはできません。

- vCenterがリンク モードの場合は、vCenterごとにSnapCenter Plug-in for VMware vSphereに登録する必要があります。

手順

1. SnapCenter GUI の左側のナビゲーション ペインで、ホスト を選択します。
2. 上部の 管理対象ホスト タブが選択されていることを確認し、仮想アプライアンスのホスト名を見つけて、それがSnapCenterサーバーから解決されることを確認します。

3. ウィザードを開始するには、[追加] を選択します。
4. [ホストの追加] ダイアログ ボックスで、次の表に示すように、 SnapCenterサーバーに追加するホストを指定します。

フィールド	操作
ホストタイプ	ホストのタイプとして*vSphere*を選択します。
ホスト名	仮想アプライアンスのIPアドレスを確認します。
クレデンシャル	導入時に指定したSnapCenter Plug-in for VMware vSphereのユーザ名とパスワードを入力します。

5. *送信*を選択します。

追加されたVMホストは、[Managed Hosts]タブに表示されます。

6. 左側のナビゲーション ペインで [設定] を選択し、[資格情報] タブを選択して [追加] を選択し、仮想アプライアンスの資格情報を追加します。
7. SnapCenter Plug-in for VMware vSphereの導入時に指定したクレデンシャル情報を入力します。



[Authentication]フィールドでは、[Linux]を選択する必要があります。

終了後の操作

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereのクレデンシャルが変更された場合は、SnapCenterの[Managed Hosts]ページを使用してSnapCenter Serverでの登録を更新する必要があります。

SnapCenter VMware vSphere Clientへのログイン

SnapCenter Plug-in for VMware vSphereを導入すると、vCenterにVMware vSphere Clientがインストールされ、他のvSphere ClientとともにvCenterの画面に表示されます。

開始する前に

vCenterでTransport Layer Security (TLS) が有効になっている必要があります。VMwareのドキュメントを参照してください。

手順

1. ブラウザからVMware vSphere vCenterにアクセスします。
2. **VMware vCenter Single Sign-On** ページにログインします。



*ログイン*ボタンを選択します。VMwareに既知の問題があるため、ログインする際はEnterキーを使用してしないでください。詳細については、ESXi Embedded Host Clientの問題に関するVMwareのドキュメントを参照してください。

3. **VMware vSphere** クライアント ページで、ツールバーの [メニュー] を選択し、* SnapCenter Plug-in for VMware vSphere* を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。